

# ワークショップ

## 外国語（英語）教育学研究の進め方 いつ、どこで、何をするか？ 鬼田 崇作 先生（同志社大学）



本ワークショップは、これから外国語（英語）教育学の研究を行ってみよう、見つめ直してみようと考えている大学院生、教員の方を主な対象として、研究を進める各段階でどのようなことに注意をしながら研究を進めていけば良いのかについて、私のこれまでの経験をもとに話題提供をし、良い研究実践の方法についてともに考えていきたいと思います。

【略歴】同志社大学文学部准教授。広島大学外国語教育センター特任講師、同准教授を経て、2021年より現職。専門は英語教育学。特に、外国語の語彙学習と単語認知について、主に心理学的な手法を用いた研究を行う。Reading in a Foreign Language、Memory and Cognition、Studies in Second Language Acquisition、Second Language Researchなどに論文を発表。

## SNSを参考にした 「紙上でコミュニケーションする言語活動」 奥住 桂 先生（埼玉学園大学）



SNSってつい何度も開いてしまいますよね？ 人の心を動かすその仕組みだけを教室に持ち込めないかと考えて取り組んだ、紙上でのアナログなコミュニケーション活動をご紹介します。実際に体験してもらい「仕組み」の肝を考えます。そしてこれはGIGA端末の揃う教室でデジタルに実現可能なのか？

【略歴】埼玉県の公立中学校で奉職後、都内私大講師を経て2023年より現職。主な著書に『4達人が語る！至極の英語授業づくり&活動アイデア』（明治図書出版）、『中学英文法「意味順」ドリル1・2』（テイエス企画）など。また月刊誌『英語教育』（大修館書店）にて連載中。「英語教育2.0 Podcast」も好評配信中。

# 外国語教育メディア学会（LET）関西支部

## 2023年度 秋季研究大会

2023年11月4日（土）立命館大学大阪いばらきキャンパス

### シンポジウム

## 誰のための研究か、何のための研究か

外国語教育研究の対象は多岐に渡り、その全体像を俯瞰することは難しい。自分とは異なる種類の研究を目にしたとき、その研究がどのような背景や目的を持って行われているのかを正確に理解するのは容易ではなく、それに起因する誤解や軋轢が論文の査読や学会発表の場などで生まれている。本シンポジウムでは、研究者同士の相互理解の一助となることを目的として、第二言語習得研究と外国語教育実践研究を行う2名の登壇者にそれぞれの持つ研究と教育へのスタンスを語っていただき、我々が日々どのような考えを持って他の研究に向き合うべきか、何ができるのかについて検討したい。

## パネリスト



浦野 研 先生（北海学園大学）

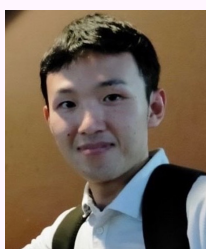
【略歴】北海学園大学経営学部教授。名古屋学院大学大学院英語学専攻客員教授。研究の関心は第二言語習得（統語・形態素）、タスク・ベースの言語指導、特定目的のための英語教育、研究の方法論。

田村 祐 先生（関西大学）

### 英語教育とSLA研究の距離感：理論と実践は往復するべきか

本発表では、実践に直接的な示唆を求めない第二言語習得（SLA）研究の意義について考える。SLA研究において、教育実践に関わる部分についての関心が高いことは一定程度認めつつ、そのことが理論なき研究の積み重ねを生んでいることを指摘する。その上で、教育的介入への示唆を目指す研究と理論構築のための研究は相互補完的であることを示す。

【略歴】関西大学外国語学部准教授。2018年名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程修了。博士(学術)。主な著作は、まだない。



南 侑樹 先生（神戸市立工業高等専門学校）

### 研究と修養としての実践研究—実践者の立場から—

実践研究の視点で見ると、研究は研究者だけでなく、すべての教員のためのものであり、当事者を含む、学習者や教員に還元するために行われるものと考え。実践研究では、問いは必ずしも学術研究に基づくものではなく、教員の日々の生活から生まれる場合もある。本発表では、実践研究の事例を示しながら、実践研究を行う上での苦勞と意義について述べる。

【略歴】神戸市立工業高等専門学校准教授。大阪府立高等学校教諭を経て現職。専門は英語教育学、第二言語語彙習得・指導。自身も実践研究に取り組む一方で、小学校・中学校・高等学校教員の実践研究の支援、およびコミュニティづくりに携わっている。

外国語教育メディア学会（LET）関西支部事務局  
〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 関西大学外国語学部  
田村 祐 研究室  
E-mail: kansailet@gmail.com